

■コメント

1. 流行性耳下腺炎

定点当たり2.25人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、耳下腺部(耳の下からあごにかけて)の片側または両側が腫れて痛くなるのが主な特徴で、多くは発熱を伴います。

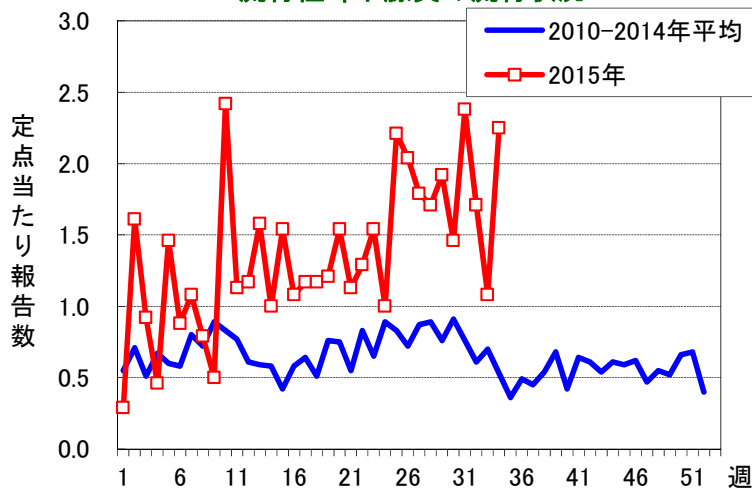
近年、広島市では2005年、2010年頃を中心に流行しました。流行の周期から推測すると、さらに増加する可能性があり、注意が必要です。

2. ヘルパンギーナ

定点当たり1.50人と、例年同時期と比べて多い状態が続いています。

ヘルパンギーナ患者からの検出ウイルスとして、今年は全国的にコクサッキーウイルスA10型が多く報告されています。(次頁参照)

流行性耳下腺炎の流行状況



前週(第33週)は、お盆期間中の医療機関休診の影響があるため、第34週の疾患の増減の評価及び「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示は、前々週(第32週)との比較で行っています。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	54	2.25	0.53	
小児科	咽頭結膜熱	11	0.46	0.55		眼科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.32	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	1.00	0.37		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	74	3.08	2.93		眼科	流行性角結膜炎	16	2.29	1.03	
	水痘	3	0.13	0.59		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	手足口病	100	4.17	1.52		基幹	無菌性髄膜炎	1	0.14	0.25	
	伝染性紅斑	12	0.50	0.16		基幹	マイコプラズマ肺炎	6	0.86	0.37	
	突発性発しん	8	0.33	0.64		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.12		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	36	1.50	0.91							

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	7
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	92	男性(60歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、女性(80歳代)・1人、女性(90歳代)・1人
5	ウイルス性肝炎	2	5	男性(10歳代)・B型・1人、男性(40歳代)・B型・1人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	14	女性(90歳代)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 球菌咽頭 炎	感染性胃 腸炎	水痘	手足口 病	伝染性紅 斑	突発性発 しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性耳 下腺炎	RSウイル ス感 染症	急性出血 性結膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性髄 膜炎	無菌性髄 膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジア 肺炎	(ロタウイ ルス) 感染性胃腸 炎
報告数	広島市	第30週	-	15	62	102	13	105	14	12	1	55	35	-	-	14	-	2	1	-	-
		第31週	-	13	47	115	6	117	15	13	1	104	57	1	-	13	-	-	4	-	-
		第32週	1	18	44	95	10	127	14	11	1	45	41	-	-	4	-	3	-	-	-
		第33週	-	8	23	51	6	66	3	9	-	27	26	1	-	9	-	2	3	-	-
		第34週	-	11	24	74	3	100	12	8	1	36	54	4	-	16	-	1	6	-	-
定点当 たり	広島市	第30週	-	0.63	2.58	4.25	0.54	4.38	0.58	0.50	0.04	2.29	1.46	-	-	1.75	-	0.29	0.14	-	-
		第31週	-	0.54	1.96	4.79	0.25	4.88	0.63	0.54	0.04	4.33	2.38	0.04	-	1.63	-	-	0.57	-	-
		第32週	0.03	0.75	1.83	3.96	0.42	5.29	0.58	0.46	0.04	1.88	1.71	-	-	0.50	-	0.43	-	-	-
		第33週	-	0.33	0.96	2.13	0.25	2.75	0.13	0.38	-	1.13	1.08	0.04	-	1.13	-	0.29	0.43	-	-
		第34週	-	0.46	1.00	3.08	0.13	4.17	0.50	0.33	0.04	1.50	2.25	0.17	-	2.29	-	0.14	0.86	-	-
	全国	第32週	0.05	0.47	1.46	3.40	0.29	8.95	0.62	0.60	0.02	2.61	0.53	0.30	0.02	0.88	0.02	0.06	0.40	0.01	0.02
		第33週	0.05	0.36	1.03	2.47	0.22	5.90	0.38	0.44	0.01	1.70	0.44	0.30	0.01	0.64	0.03	0.07	0.50	0.01	0.02

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0)	0	女	2015/07/13	咽頭拭い液	ハラインフルエンザウイルス1型

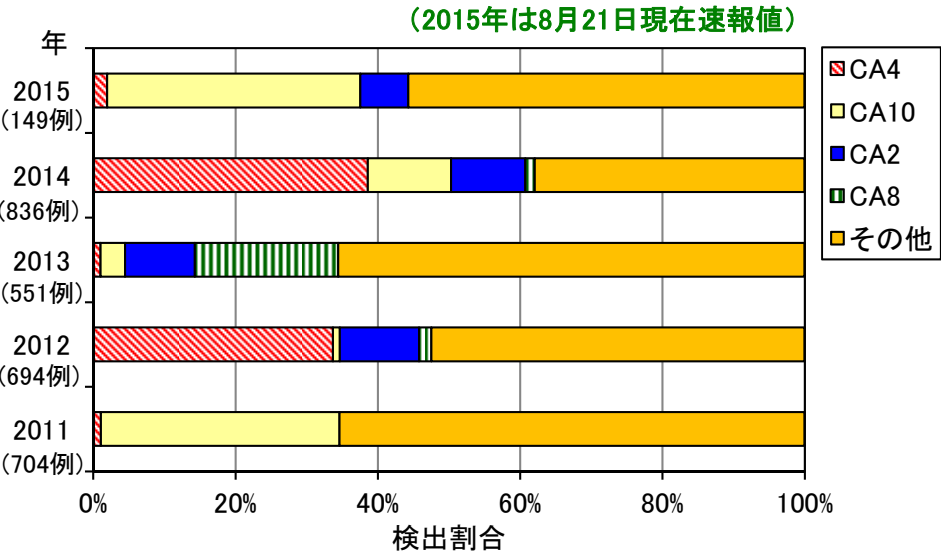
* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】全国におけるヘルパンギーナ患者からのウイルス検出状況(出典: 国立感染症研究所)

ヘルパンギーナは、発熱と口の中の水疱を特徴とするウイルス性の疾患で、まれに髄膜炎や急性心筋炎を併発することがあります。

原因ウイルスは、主にコクサッキーウイルスA群で、コクサッキーウイルスB群、エコーウイルスで発症する場合があります。2015年はコクサッキーウイルスA10型が多い傾向となっています。

なお、この疾患は回復して症状がなくなっても、2～4週間の長期間にわたって便などにウイルスが排泄されることがあります。手洗いの励行や排泄物の適切な処理を心がけるなど感染予防を徹底しましょう。



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
 なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
 URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】
 広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
 TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp